

新任教授紹介



医薬品機能解析学分野 教授

土屋浩一郎

Koichiro Tsuchiya

新任のご挨拶を述べさせていただきます。このたび、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療創生科学部門 臨床薬学講座 医薬品機能解析学分野（旧 生化学）を担当させていただくことになりました土屋浩一郎と申します。山内 卓教授の後任として、平成19年4月1日に辞令を受けました。

私は昭和63年に本学薬学部（薬品分析学講座・下村滋教授）を卒業し、修士を修了後、薬剤師として調剤薬局、徳島大学病院薬剤部（故高杉益充教授、水口和生教授）と6年半勤務し、この間、諸先生方のご配慮を頂き、実務の合間に「活性酸素・フリーラジカル」に関する研究を続け平成

9年に学位を取得しました。その後米国留学と6年間の医学部（薬理学講座・玉置俊晃教授）での助手生活を経て、平成15年より助教として本学臨床薬学講座（滝口祥令教授）にお世話になり、そして現在に至ります。担当することになりました医薬品機能解析学分野は、薬学部が医学部、歯学部及び附属病院と連携し、臨床薬学の教育・研究システムを構築することを目的として平成18年度に新たに設置された新しい教室です。今後は微力ではありますが、これまでの経験を生かし、徳島大学薬学部の発展に努力する所存ですので、皆様のご指導とご鞭撻のほどを宜しく申し上げます。



衛生薬学分野 教授

徳村 彰

Akira Tokumura

平成19年3月末に停年退職され広島のア田女子大薬学部（新設）に赴任されました福澤健治教授の後任として、4月1日より徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療創生科学部門 社会環境衛生学講座 衛生薬学分野（旧 衛生化学）を担当することになりました。本分野は、化学を基盤として健康増進を志向する予防薬学に関する大学院と学部教育、並びに予防薬学関連の研究を担当しております。私は、昭和49年4月に旧衛生化学研究室に助手として赴任し以来、33年にわたり、塚谷博昭教授のもとで酸化リン脂質の病態生理

学的役割並びに脂質メディエーターの異常産生と疾患に関する研究を行なってきました。また、福澤健治教授と共に酸化ストレス/抗酸化ポテンシャルのバランスの研究も展開してきました。これまでの本研究室の伝統を基盤に創薬や新医療法の開発を目指し研究を更に発展させると共に、予防薬学に関する大学院や学部教育に積極的に取り組みたいと思っております。また、教授としての重い責任を果たしていけるよう、日々、精進していく所存です。皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。



分子創薬化学分野 教授

佐野茂樹

Shigeki Sano

2007年4月1日より、長尾善光教授（現 徳島大学理事・副学長・知的財産本部長）の後任として、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 創薬資源科学部門 機能分子創製学講座 分子創薬化学分野（旧 薬化学）を担当させていただくこととなりました。1990年4月に助手として徳島大学薬学部へ赴任して以来、薬化学研究室（現 分子創薬化学研究室）では、公私にわたり格別のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。1951年に薬学部が設置され、市来崎寿蔵先生、藤田榮一先生、小林茂先生、長尾善光先生が歴代主宰されてこられた伝統ある研究室を引き継ぐこととなり、その責務の重大さを痛感しておりま

す。藤田、長尾両先生は京都大学化学研究所 大学院生時代の恩師でもあられ、感慨もひとしおです。これまで同様、「ヘテロ原子の特性を活用する新反応及び機能性分子の開発と創薬への応用」を研究課題の柱とし、薬学としての独自性と学際性を備えた有機化学的研究に鋭意取り組んでいきたいと存じます。2006年度からは薬剤師養成のための薬学部6年制がスタートし、日本の薬学界は大変革期を迎えておりますが、決意を新たに研究と教育に粉骨砕身努力いたす所存でございますので、皆様には、今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。